

第5回中海会議【概要】

H26.8.25 国際ファミリープラザ（米子市）

議事1 部会・ワーキングからの報告事項

（1）中海湖岸堤等整備に係る調整会議（説明者：国土交通省出雲河川事務所長）

【意見等】

■松江市長

- ・大橋川の拡幅、築堤工事が本格化されたが、これは3点セットということなので、ここで停滞することなく進捗できるよう十分な予算措置をお願いしたい。
- ・中海湖岸堤の短期整備箇所のうち、松江市内で長海と江島の2カ所が残っているので、早期に設計完了し工事着手をお願いしたい。また、中海湖岸堤と同時に宍道湖の湖岸堤整備についても、早期の事業着手をお願いしたい。

■米子市長

- ・旗ヶ崎の承水路については、昨年度から逆流防止施設、水門設置の工事に着手、来年度末には完成予定と伺っているが、内水の排除に苦慮しており、ゲリラ豪雨や台風時の記録的降雨などの緊急対応策として、ポンプ車等の対応と併せて内水排除対策に対する国土交通省の支援をお願いしたい。
- ・今後、斐伊川水系河川整備計画に基づき、短期整備箇所について引き続き事業実施をお願いする。また、短中期の整備箇所についても事業化に向けて検討していただきたい。

■国土交通省中国地方整備局副局長

- ・大橋川の整備推進は、予算確保が大切だと思っているので、できるだけ取組をする。下流の拡幅については用地の問題もあるので、地権者の方々の理解を得ながら用地対応を進め整備を推進していきたい。
- ・中海湖岸堤の短期整備箇所のうち、松江側の未着手箇所についても、着手準備をできるだけ早く進め、早期着手したい。
- ・旗ヶ崎他の承水路については、できるだけ努力をしていく。内水が入った所には、ポンプ車の派遣のほか、地元でとられる色々な対策に必要な交付金の予算確保等を頑張りたい。また、技術的支援やアドバイス等にも対応したい。

■鳥取県知事

- ・短期整備箇所については、宍道や玉湯、安来も含めて対応をお願いしたい。
- ・福知山での大変な水害も内水のことであり、決して内水による浸水被害を軽視できない。宍道湖・中海地域では、たびたび内水による洪水・浸水が発生しているので、市と国とが一体となって尽力願いたい。
- ・短中期整備箇所は、大橋川拡幅の前段階で時系列的に整備されるよう従来から約束していただいているところであるが、確実に履行していただきたい。

（2）中海の水質及び流動会議（説明者：鳥取県生活環境部水・大気環境課長）

【意見等】

■松江市長

- ・水質の分析も大変大事だが、それを受けて水質改善につながる具体的な活動・行動をしていく必

要がある。国・県・市それぞれの役割分担はあるが、この中海会議で具体的な対策を打ち出して、これをやったからこれだけの水質が改善したというものを、ある程度共有することが大事だと思う。事業をやることで少しでも改善につながるのであれば、積極的にやっていくことが大事だと思う。

- ・中海の海藻刈りで大変良い結果が出ているので、この拡大を図ってもらいたい。従来、水深の小さい河川では、人が入って手で刈り取り船に積んでいたため、大変な重労働だった。松江市では、今年、藻刈り船を作ったので、中海でも広く活用していただきたい。
- ・中海でも、サルボウガイやアサリの養殖が行われているが、この生息状況、取組状況の情報提供を頂くと中海全体のことが見えてくると思う。今後、水産振興部門から、現在行われている施策の取組状況や課題を報告いただくと、今後の対策に役に立てることができると思う。

■安来市長

- ・生活排水処理や浅場造成等いろいろな事業が進められているにもかかわらず、中海の水質があまり良くならない状況であるが、どこに原因があるのか。かつてヘドロ集積を取ったり、残ったものを覆砂したが、覆砂といっても30cmほどなので、長い間に波でとれ、湖底のヘドロが害を及ぼすこともあるのではないかな。

■米子市長

- ・中海の水質改善は大変必要な課題であり、国・県・4市一体となって、さらに水質改善のために取り組んでいかなければいけないと思う。県も協力を取り、水質保全計画をさらに強力に進めていくということが必要だと思う。
- ・覆砂事業は、米子湾の錦海町沖で25年度から進めていただいているが、この覆砂事業は非常に有効だと思う。早期に米子湾の環境修復が図られるよう、さらに事業を推進していただきたい。
- ・森山堤防一部開削による効果について、開削が中海全体にどう影響を及ぼしているか判断できない、アオコの影響や赤潮の影響等も考えられるのでモニタリングデータでは著しく悪化とか著しく良くなっているというところも読み取れないという説明があった。判断は難しいということではあるが、森山堤防の一部開削から5年が経っているので、開削の影響について一定の評価ができるよう考えていただきたい。

■境港市長

- ・藻刈りによる栄養塩の循環システムの事業は、水質浄化に大変効果があるという話があった。このメンバーの方々も積極的に取り組む意欲をお持ちであり、助成額が減額になるといった話が少し出ているが、もう少し息の長いスパンで見ていただく必要がある。この事業は継続してやっていただきたい。

■島根県知事

- ・水質等の評価、観測結果を報告していただいたが、データを見てどう評価するかは、非常に難しいし、一般の方も理解がしにくい。5期25年にわたる計画で保全に努めてきた結果として、第1期の計画に比べると、水質は改善傾向となり、市民や関係者の利活用も活発になされてきているが、水質、環境基準が依然として未達成ということが総括的な評価だと思うが、この評価をさらに詳しくやろうとすると、技術的に難しい。専門家と一緒に、どういう要素がクリティカルなのか、よく研究する必要がある。
- ・観測方法も地点の取り方もいろいろあるので、引き続き観測方法等の改善等についても専門家とよく議論して、できるだけ新しい知見を活用してほしい。
- ・サルボウガイなどの生息数が増加傾向にあるが、このプラス面を評価してもよい。そういうものと水質等の関連を、引き続き専門家と研究していく必要がある。
- ・湖の温度も水質に随分影響を与えている感じがする。藻、アオコの発生には湖全体の温度変化が

影響しているようだが、そういったことも含め観測の高度化・拡大をしていただきたい。

■鳥取県生活環境部水・大気環境課長

- ・水質改善浄化に向けて、具体的な対策が必要だという意見を頂いたので、第6期計画にある程度具体的に盛り込んでいきたい。
- ・モニタリングをきちんとしながら、どういう策をとっていくのが一番良いかということも研究しながら進めていく。
- ・5年経過した開削の影響については、本庄水域の底層の塩分濃度が上昇して塩分躍層が出て過度の貧酸素状態が見られることはあるが、本庄水域以外の水質の変化は、気象や気温、流入負荷の量やプランクトンの状況により、状況は地点地点で変わってきているので、必要であればさらに専門家の助言を聞きながらモニタリングを継続して丁寧な分析をしていきたい。
- ・藻刈りについては、効果、課題等が分かってきたので、26年度以降も継続して支援していく。

■鳥取県生活環境部長

- ・モニタリング関係の抽出・分析の強化について、現在、定点的調査になっているが、調査の内容等より充実する必要がある。生物種も含めた調査、深度ごとの調査、温度も含めて調査するといった複合的な調査が必要と考える。鳥取県、島根県で内容等を検討するが、河川管理者である国交省の協力、予算措置も含めた支援等をお願いしたい。

■鳥取県知事

- ・これから我々全体で水質保全計画に向かい、最終的には環境省とも協議して定めていくことになるが、いろいろと課題も出てきている。5期計画を見ると、流入規制を中心に計画が組んであるが、藻刈り等で水質改善に与える影響もあるし、農業的にもこれを利用する海藻米のような手立てもある。実効性がある対策を組んでいかないといけないが、第6期水質保全計画に向けて、意欲的に皆さんと協力して計画の中に盛り込んでいく必要がある。
- ・水質の観測の仕方を合理的にやる必要があり、国交省にもご協力いただきながら、両県で協力し合ってやっていくという観点が必要である。
- ・中海は非常に広いので、もう少し地域を割って考えないといけないのではと思う。湖心のあたり、本庄工区のあたり、境水道に近い所、米子湾のあたり、それぞれが実は別の湖のような状況もある。それぞれの所に必要な対策、アプローチがあり、いろんなやり方が考えられる。今回、水質保全計画を作るので、今日の議論を集約して、参加者の皆様と調整させていただきたい。

(3) 中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ (説明者：米子市経済部次長)

【意見等】

特になし

(4) 中海の利活用に関するワーキンググループ (説明者：島根県政策企画局長)

【意見等】

■鳥取県知事

- ・サルボウの赤貝飯、ノリようかんもいただいたが、十分おいしいもので、びっくりした。もっともっと、こういう豊かな中海の魅力を、多くの方々に知っていただけるように、我々も頑張らなければならないと思う。

■安来市長

- ・いろいろなワイズユースが行われているが、1つ紹介させていただきたい。数年前から安来市の飯梨川河口で、スカイボーディングを愛好する若者たちが夏に集っている。遠くは山陽、神戸からも来て、隠れた穴場になっている。2016年リオのオリンピックから正式な種目になるもの

である。飯梨川河口は、飯梨川の堆積した砂場に中海の浅瀬もあり、産業効果もある条件がかなりいい所。市でもトイレの設置等、状況を整備してもっと若者たちに来てもらおうと思っている。

■鳥根県知事

- ・ミズベリングは、いろいろなアイデアがあり、民間の方々もいろいろ提案・活動されているので、協力・連携して、できるものはどんどんやっていく方針でやっていただけると良い。

■鳥取県知事

- ・今、話があったことについては、皆様の参加をいただきながら、前進させていければと思う。
- ・ラムサール条約10周年に向けて仕上げの年になる。中海も宍道湖も夕日を眺める場所、水鳥の集う光景を慈しめる場所。いい機会だと思うし、国内外にこの魅力を発信できるよう、我々も団結してやっていきたい。ワイズユースを積極的に進めるとともに、保全活動、規制の在り方も検討を進め、新年度10周年の節目に向かっていきたい。

議事2 その他

■国土交通省中国地方整備局副局長

- ・これから人口減ということもあり、さまざまな地域活性化の取組が必要ということで、先般、国土交通省でグランドデザインをまとめたが、政府全体でもまち・ひと・しごとの創造ということが大変重要、特に人口減対策で地域の取組を支援しようということで、各省に指示が下りてきている。来年度の概算要求も伴ってくるので、新たな取組の予算要求の中に、中海の利活用等でうまく乗っかるものがあるのか、我々も注目していきたい。新しい予算要求の内容等についても、このワーキンググループ等で情報提供していきたいので、ご活用いただきたい。

■鳥取県知事

- ・まち・ひと・しごとづくりの創生本部の今後の動きの中で、中海を活かせるよう、我々も要請活動を今後させていただきたい。

■農林水産省中国四国農政局長

- ・地域活性化の取組、例えば中海の食材を使った先ほどのお弁当も含めて外に売り出していくときに、知的財産の関係で地域団体商標とか、先日、地域の地理的表示の法律もでき、しっかり権利管理をやっていくことで、法制度も整備してきている。これからいろんな場で情報提供をさせていただきたい。

■鳥取県知事

- ・当地においても、例えばオーガニックで綿を生産する取組が境港で始まり、ブランディングを今やろうとしている。農政局でも、中海沿岸地域で、そうした新しい方向性が出てきたところを支援していただきたい。